

広報 2017

ちの
Chino City

ちの市議会だより

平成29年
No.882

12月号

JOMONの火が灯る

【今月の表紙】表紙の写真は10月7日に磐石史跡公園で行われた「磐石縄文の里 夜の火祭り」の点火式の様子です。“生きる”をテーマに9月9日から10月22日まで開催した「第0回八ヶ岳JOMONライフエヌアィヴリ」。市民の皆さん、事業所の皆さんと共に作り上げたお祭り。各イベントを通じて、人の生き方、生きる意味について考えることができたでしょうか。

Yatsugatake Jomon Life Festival

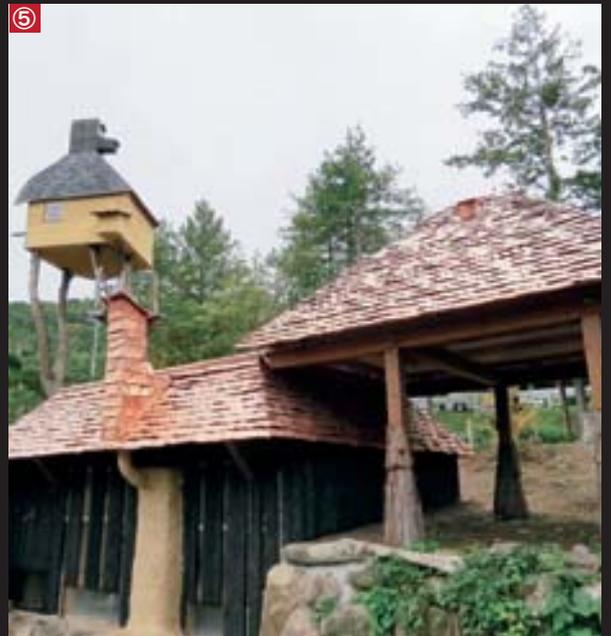


「生きる」はもっと素直でいい
Through modest creativity, a simple life can be good.

写真の説明 ①オープニングセレモニー。①-1バルーンリリースで盛大にスタートした。①-2考古館前で振る舞われた「縄文風どんぐり味噌すいとん」。①-3アーティスト後藤映則さんが制作したシンボルオブジェ。①-4長峰中学校の生徒のお二人から「何かお手伝いできないか」と申し出があり、セレモニーで司会を務めていただいた。①-5オープニング記念講演会で「生きるほくら 茅野に暮らすしあわせ」と題し講演する小説家の原田マハさん。②尖石縄文まつり。②-1尖石遺跡内を回り、様々な課題をクリアしてスタンプを集める「縄文トレジャー」。②-2開会式で縄文検定“上級”に合格したお二人に修了証を授与。②-3縄文風小屋づくりでは柱を組み合わせ、かやをかけて小屋をつくる。②-4縄文太鼓の演奏が祭りの雰囲気を盛り上げた。



八ヶ岳 JOMON ライフフェスティバル



写真の説明 ③縄文かるた大会。③-1 縄文を識る部会が制作した縄文かるたを使い、個人戦、団体戦を行った。③-2 表彰式で賞状と記念品を受け取る子どもたち。④縄文アートプロジェクト2017「ギャラリー・バードハウス」。鳥の巣箱にアート作品が詰め込まれている。⑤低過庵。建築家の藤森照信さんの新作茶室。屋根の上部がスライドする独創的な茶室。⑥縄文カフェ。⑥-1 例年春に開催している「春まちカフェ」の縄文バージョンが縄文カフェ。⑥-2「縄文」と「ハロウィン」が織り交ぜられたスイーツが並んだ。⑦尖石縄文の里 夜の火祭り。⑦-1 市長が火の矢を放ち、ファイヤーストームに点火した。⑦-2 縄文土器太鼓の演奏に合わせて踊る演者。⑦-3 ファイヤーストームを囲んで「縄文踊り」を楽しんだ。



その答えの一つとして、縄文から続くこの5000年の地で、「生きる」をテーマとして開催した八ヶ岳 JOMON ライフフェスティバル。衣食住、私たちが育んできた文化を改めて肌で感じ、故きを温ね新しきを知る。

この八ヶ岳 JOMON ライフフェスティバルを通して、参加された皆さんの心に何か新しい、温かいものが生まれたとすれば、それは大きな一歩につながるのではないのでしょうか。

画一的な基準で大量に生産されたものを消費する時代から、ひとつひとつのものの美しき、こだわりに触れる喜びが時代の潮流になりつつあります。

それは、食べるものであったり、住むところであったり、着るものであったり、今までの価値観では測れないものに、人は何かを見つけようとしています。

私たちの暮らしの原点は縄文時代にあると言われています。

また、そのライフスタイルや縄文文化を築いた人たちの心のありようは現代の人が求める答えに通じていると私たちは考えます。